

EYESCREAM

THE NEW YORK ISSUE

NOV 2015 No. 139

[アイスクリーム]

定価 910円

SPECIAL FEATURE

NEW YORK COLLECTIVE

特集「NY」

フレッシュなカルチャーは いつもニューヨークから

ストリートを騒がすシルクスクリーンクルー

LQQK STUDIO

あの「KIDS」の再来か!?

Don't Bite Daddy

ネクスト・ライアン・マッギンレー

Chad Moore

スケーターがつくるブルックリン発 バイク・カルチャー

THUMPERS

LQQK STUDIO



山口歴
Meguru Yamaguchi

VANSの「OFF THE WALL」みたいに壁から
飛び出すようなマインドで作品を作ってます

ニューヨーク・ヤンキースが拠点を構えるブロンクスのヤンキー・スタジアムから電車で一駅の場合に、1920年代に建設されたルネサンス様式の建築物がある。現在は近隣住民のコミュニティスペースとして解放されるその建物には、30ものアーティストスタジオが存在している。その一室で活動するのが日本人アーティストの山口歴（めぐる）だ。親戚の家のおーナーと日系の定食屋で偶然知り合ったことをきっかけに、レコードの2枚使いを初めて行ったとされるNYの伝説的なDJクルー・ハークも所属するレジデンスへとやってきました。

アクリル絵具を材料に、パレットナイフでダイナミックに描かれる直線から曲線。黒や青を基調としたアブストラクトな流線美は、キャンパスにそのまま塗りつけられたものではなく、直線それぞれが手に取ることでひとつのピースとして独立している。それらをカット&ペーストしてコラージュするように作品を作り上げていく。「レジンという素材をビニールシートに塗るんです。二日くらい乾かすと綺麗に剥がれるようになるので、それを切り貼りしていきます。最初のピースを作る時は感覚でやるんですけど、コラージュしていく瞬間は頭の中でしっかりと構図を考えて理性で作っています。レイヤーを重ねていくように、デザインに近いかもしれないですね」

切っ掛けという行為はステッカーに近いと山口氏は言う。東京の渋谷に生まれ、1990年代のストリートカルチャーに影響を受けてきた氏が、その体験とスタイルをミックスさせて誕生したのが今の作風だ。「小さい頃から絵を描いてきたんですけど、東京藝大の受験に落ちたんです。結局、三浪しても受からなかった。それから何をすべきかわからなくなってNYへとやってきました。もともと「Supreme」とか、影響を受けてきたのがNY発祥のカルチャーだったので、そこへ行けば何かあるかなって。それから聞かなくなっていて日本人アーティストのアシスタントにつきました。そのボスが帰国するというのでスタジオを間借りした際に、床を汚さないようにビニールシートを養生しました。だけどその時は何も作品を作ることができなくて、よいい

よ片付けないといけないとなった時に、偶然アクリルが剥がれたのを見つけて、あれ？なんかいい感じだなと思っただけです。偶然の発見でした」

「こういったアブストラクトな作品を作る人はほかにもいると思うんですけど、実際にキャンパスの枠を飛び出さずにはかかないと思うんです。常に新しいことをしたい。枠に捉われるのはカッコよくないなって。[VANS]の「OFF THE WALL」みたいに壁から飛び出すようなマインドで作品を作ります。筆も使わずに、パレットナイフや時には外に落ちてた看板を折り曲げて使ったりするのも、グラフィティやスケートといったストリートカルチャーに影響を受けてきた自分らしいフリースタイルなのかもしれません」**C**

山口歴

1982年、東京都出身。現在はNYのブルックリン在住。電車で1時間かけてブロンクスのスタジオに通い、日々作品を制作している。ACE HOTEL NY、Kinfolk 94や+81 galleryなどで展示を行うほか、STUSSY、FTC、ALIFE、CHARI&COをはじめとするUSストリート・カルチャーの代表的ブランドとコラボレーションしている。meguruyamaguchi.com



